



アジア・太平洋総合研究センター
Asia and Pacific Research Center

第31回 アジア太平洋研究会

“科技強国”を目指す中国の産業・科学技術イノベーション 研究会の概要

2024年4月19日

国立研究開発法人科学技術振興機構
アジア・太平洋総合研究センター
特任フェロー 大西 康雄

研究目的と研究項目

研究目的：

「科技強国」戦略の下での中国の科学技術イノベーションの実態について、研究開発体制の分析、産業のケーススタディに依りつつ検証し、今後の課題を展望する

研究項目：

- 1：「科技強国」戦略と中国経済・産業の現状の関連分析
- 2：研究開発へのリソース投入方式、背景と課題の分析
- 3：各産業における技術自立、イノベーションの現状と課題
- 4：知的財産権戦略が技術自立、イノベーションに与える影響
- 5：（共通テーマ）経済安保とイノベーション促進政策

報告書構成

- 序章 中国の「科技強国」の現状と課題(大西康雄・JST特任フェロー)
- 第1章 習近平「新時代」における産業発展・科学技術振興：「自立自強」の論理と展開(大橋英夫・専修大学教授)
- 第2章 最近の中国の研究ファンディング政策の特色：研究開発費投入方法からみた研究開発システムの現状と今後(白尾隆行・JST特任アドバイザー)
- 第3章 中国の「高度な自立自強」政策について：生成AIの開発・活用のリサーチを兼ねて(金堅敏・富士通チーフ・デジタル・エコノミスト)
- 第4章 中国の半導体産業：政策関与と現状(丸川知雄・東京大学教授)
- 第5章 産業用ロボットのサプライチェーンと経済安全保障(張紅詠・RIETI上席研究員)
- 第6章 草の根の科技強国：越境ECのイノベーションとフレキシブルサプライチェーン(高口康太・千葉大学客員准教授)
- 第7章 技術革新時の日中企業の知的財産戦略の比較：興隆と衰退の要因分析(後谷陽一・鳥取大学客員教授)

研究成果からの示唆と課題

- ①中国にとって「科技強国」実現は成長を持続する鍵
- ②米中摩擦など国際環境変化で「科技強国」実現には自前技術によるブレークスルーが必要 ⇒ “技術遮断”下での可能性を展望
- ③中国はこれを「国家安全」を確保しつつ実現しようとしているが、イノベーションの本質とは矛盾する面がある
- ④研究開発体制での国・党主導の動きが強まっているが、その効果・影響は今後を見る必要 ⇒ 資金投入以外のシステム分析も必要
- ⑤産業レベルの科学技術イノベーションは成果を上げているが課題も ⇔ ②
- ⑥経済安全保障に関わる産業分野では今後とも政策支援が必要で、その内容も再考が求められる ⇒ 「戦略産業目録」と資金投入の分析
- ⑦知的財産権分野でのオープンイノベーション戦略は成功してきたが、国際環境が変わる中で今後を見る必要

中国の“科技強国”戦略と産業・科学技術イノベーション

https://spap.jst.go.jp/investigation/report_2022.html#fy23_rr02



登壇者ご報告

1. 金 堅敏（富士通チーフ・デジタルエコノミスト）

米中技術デカップリングに直面する中国の「高度な技術自立自強」政策について

2. 張 紅詠（経済産業研究所・上席研究員）

産業用ロボットのサプライチェーンと経済安全保障

3. 白尾隆行（APRC特任アドバイザー）

最近の中国の研究ファンディング政策の特色

<ディスカッション>

<視聴者との質疑応答>

ご静聴有難うございました